



インターネットでの情報提供	
提供予定日	11月14日(水)

平成24年11月13日(火)		県政記者クラブ配布資料	
担当課	担当係	担当者	電話番号
畜産研究所	飛騨牛研究部	丸山 新	0577-68-2226

畜産研究所「ふれあい報告会」の開催について

畜産研究所の研究成果発表会である「ふれあい報告会」を開催します。午前の部では各研究部の研究成果の報告を、午後の部の講演会においては、川島博之^{かわしまひろゆき}東京大学准教授（農学生命化学研究科）にご講演いただきます。

記

1 日 時 平成24年11月20日(火) 10:00～15:00

2 場 所 可茂総合庁舎 大会議室
(住所：美濃加茂市古井町古井 2610-1 電話：0574-25-3111)

3 参加者 畜産農家、畜産関係団体職員等 約160名

4 内 容

(1)各研究部の研究成果報告(10:00～12:00)

「和牛の乳量の子牛の発育に及ぼす影響について」

飛騨牛研究部 武田賢治^{たけだけんじ} 研究員

「初産牛の泌乳前期に給与する飼料の適正な栄養水準について」

酪農研究部 林 登^{はやし のぼる} 主任専門研究員

「密閉縦型発酵装置の高度利用による豚ふんペレット堆肥製造技術の開発について」

養豚研究部 加藤誠二^{かとうせいじ} 主任研究員

「肉用奥美濃古地鶏への飼料用米給与について」

養鶏研究部 石川寿美代^{いしかわす みよ} 専門研究員

(2)講演会(13:00～15:00)

演題：「世界の食料～日本の畜産業をどうするか～」

講師：東京大学大学院農学生命科学研究科 川島博之^{かわしまひろゆき} 准教授

◆研究成果報告の概要

「和牛の乳量の子牛の発育に及ぼす影響について」飛騨牛研究部

黒毛和種は改良により産肉能力は大きく向上した一方、種牛能力のうち、哺育能力として重要な乳量については、測定が困難なため把握されていないのが現状です。今回、黒毛和種繁殖雌牛の乳量を調査し、子牛の発育、血液検査所見、下痢や肺炎などの疾病発生との関係について調査しましたので、その結果を報告します。

「初産牛の泌乳前期に給与する飼料の適正な栄養水準について」酪農研究部

乳用牛において、分娩前後の飼養管理は、分娩後の産乳成績や繁殖成績などに大きく影響を及ぼすことが知られています。特に初産牛においては、体が成長段階にあるうえ、分娩、泌乳を初めて経験することから、経産牛とは異なる飼養管理が必要となります。今回、「初産牛の泌乳前期に給与する飼料の適正な栄養水準」について検討した結果を報告します。

「密閉縦型発酵装置の高度利用による豚ふんペレット堆肥製造技術の開発について」養豚研究部

窒素成分が低く、粉状で機械散布が困難な密閉縦型発酵装置の豚ふん堆肥に、アンモニウムリサイクラーで回収した硫酸アンモニウム溶液を混合・成型して製造した高窒素豚ふんペレット堆肥について、ペレット成型前後の窒素成分の分析、窒素肥効パターンの調査および水稻の栽培試験結果を報告します。

「肉用奥美濃古地鶏への飼料用米給与について」養鶏研究部

養鶏は飼料原料の大部分を輸入に依存しています。近年、飼料自給率の向上や水田の有効活用を図るため、国産飼料原料として飼料用米が注目されています。そこで、飼料中のトウモロコシを飼料用米に代替し、岐阜県の地鶏「肉用奥美濃古地鶏」に給与した飼育試験の結果を報告します。

◆講演会の概要

「世界の食料～日本の畜産をどうするか～」

世界は1950年ごろより、食料不足の時代から「作りすぎ」が問題になる時代に移行しています。科学技術の発展などにより、どの国も容易に増産が図られるようになった結果、農産物の価格が下がっています。そのような状況の中で、世界の食料事情から見た今後の日本の畜産はどうあるべきかを紹介します。

◆講師プロフィール

川島博之 氏

昭和58年に東京大学工学系大学院化学工学科博士課程を修了後、東京大学生産技術研究所に勤務。平成元年から農林水産省農業環境技術研究所に勤務され、現在、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授。

日本水環境学会論文賞受賞（昭和63年）、システム農学会論文賞受賞（平成9年）、Taylor & Francis and The Remote Sensing Society's Best Letter Award（平成10年）。